

望ましい人間関係を育てる学級経営

— 不登校児との関わりを通して —

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究の仮説	41
III	研究の全体構想図	42
VI	研究の内容	43
1	登校拒否の理解	43
(1)	登校拒否とは	43
(2)	登校拒否の背景	43
(3)	登校拒否の発生状況（全国と本県との比較）	44
(4)	本市の登校拒否児童生徒の状況	44
(5)	登校拒否に陥った直接のきっかけ	44
(6)	登校拒否の主なサイン	44
(7)	学級担任としての援助・指導のあり方	44
①	潜在的段階の援助・指導	45
②	心気症的段階の援助・指導	46
(8)	潜在的段階発見のためのチェックリストとその結果	47
2	望ましい人間関係を育てるには—不登校児を受け入れるために—	50
(1)	マズローの欲求階層説	50
(2)	教師の言語活動の重要性	50
(3)	教師の援助、指導過程における発言の分類	51
(4)	子どもの言語環境を整える必要性	51
(5)	学級経営年間計画案—不登校児の受け入れ態勢づくり—	52
V	実践事例	53
(1)	その1・学級活動、主題「思いやりのある言葉」	53
(2)	その2・A子の事例	57
VI	研究の成果と今後の課題	60
	《主な参考文献》	60

宜野湾市立大謝名小学校

洲鎌 末子

望ましい人間関係を育てる学級経営

— 不登校児との関わりを通して —

宜野湾市立大謝名小学校

洲鎌 末子

I テーマ設定理由

近年、心理的要因による不登校児が毎年増加の傾向にあり、学校教育上重要な課題となっている。

これからの学校教育は、社会の変化に主体的に対応できる個性豊かでたくましい人間の育成を図ることが重要とされている。

本校でも「一人一人を生かし豊かな人間性と心身共に健康な児童の育成を図る」を目標に掲げ、学校教育のあらゆる場で実践にとりくんでいる。それにもかかわらず、不登校、いじめ、心身の不調を訴える等の問題は、増える傾向にあり憂慮すべき状態である。

本学級のA子も1年生の3学期から2年生修了まで不登校に陥っていたが現在（3年生の2学期中旬）登校できるようになっている。

これまでの指導で、

1. 担任と学級の子どもたちが協力して受け入れ態勢をつくったこと。
2. 家庭との連携を密にしたこと。
3. 認め合える雰囲気づくりに気がつけたこと。
4. 専門機関との連携を密にしたこと。

等、A子を中心とした温かい学級集団作りに心がけ、学校、家庭、専門機関との連携を密にした取り組みが功を奏したと考える。

不登校の要因は、本人の生育歴や家庭環境、所属する学校、学級における人間的な関わり等の中から、それぞれの子の情緒面、行動面のちがいとなって表れることが予想される。それ故、100人いれば100の不登校の態様が表れる。

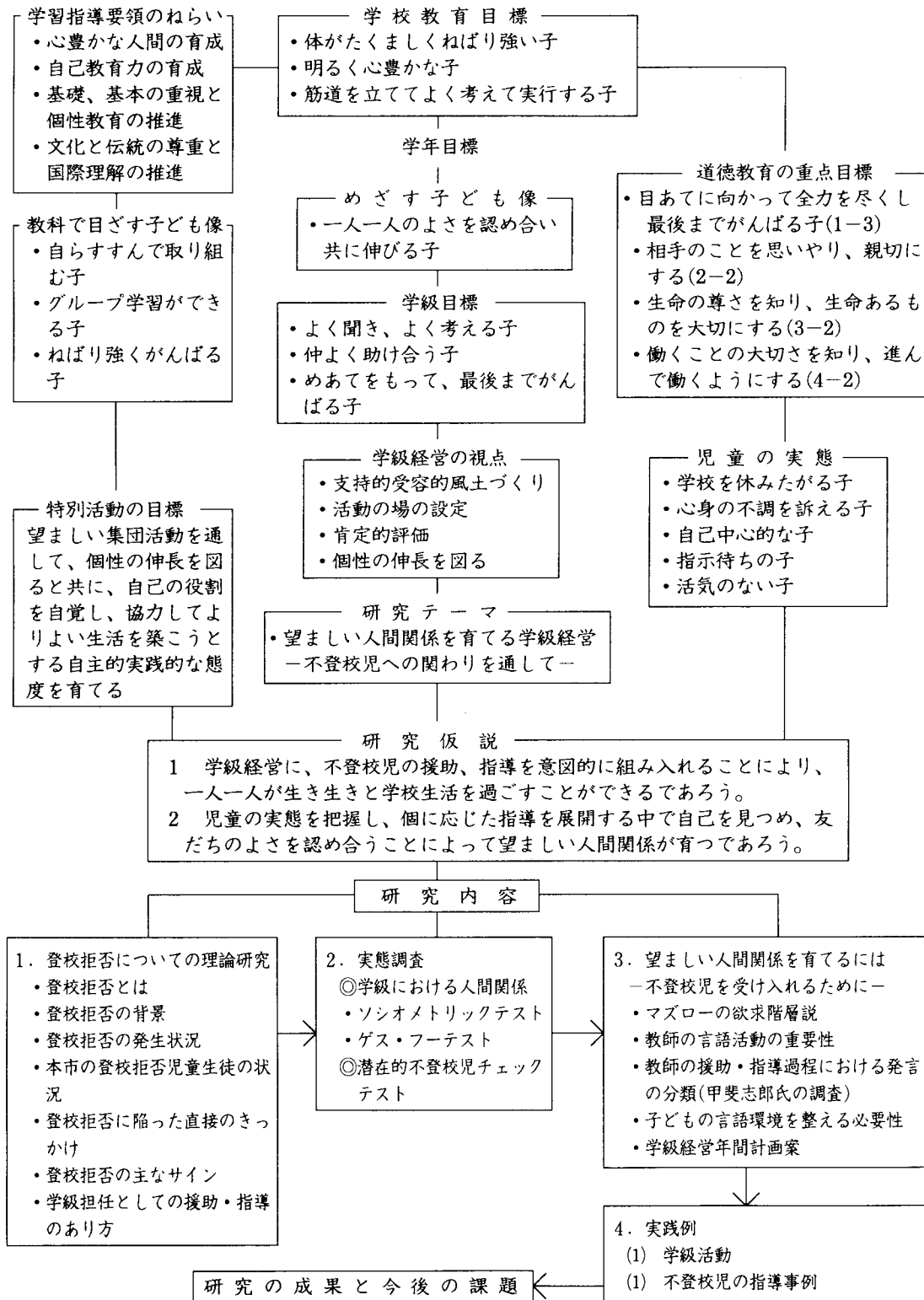
そこで、不登校児をどう理解し、どのように援助していけばよいのか、これまでの実践をもとに、学級経営の立場から理論的に研究を深めていきたい。今や不登校を「どの子にも起こりうる問題である」ととらえ学級担任は、一人一人が発するサインを正しくキャッチする能力を高めなければならないからである。

以上のことを研究することによって、不登校児のみならず様々な問題行動を持つ一人一人を理解することにもつながると考える。その結果として、望ましい人間関係が育ち学級が一人一人にとって存在感のある「居心地のよい場」となるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究の仮説

- 1 学級経営に、不登校児の援助、指導を意図的に組み入れることにより、一人一人が生き生きと学校生活を過ごすことができるであろう。
- 2 児童の実態を把握し、個に応じた指導を展開する中で、自己を見つめ、友だちのよさを認め合うことによって望ましい人間関係が育つであろう。

III 研究の全体構想図



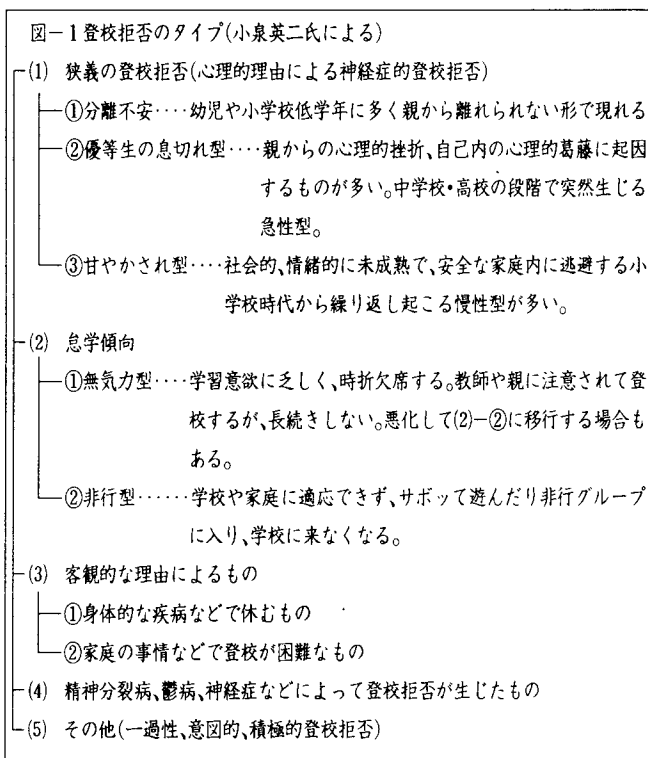
IV 研究の内容

1 登校拒否の理解

(1) 登校拒否とは

登校拒否に関する定義はさまざまであるが、「主として何らかの心理的・情緒的、身体的、あるいは社会的要因、背景により児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にあること（ただし、病気や経済的理由によるものを除く）」をいう。（文部省の「学校不適応対策調査研究協力者会議報告」平成4年3月）

登校拒否の子どものなかにはいくつかのタイプがあり、発症経過や症状の発段階、自我の発達症状形成要因などいろいろな観点からの捉え方があるが、小泉英二氏は登校拒否を広義に捉え図-1のタイプに分類している。



(2) 登校拒否の背景

登校拒否は、本人の性格や、学校・家庭・社会といったような様々な要因や背景が複雑に絡み合って起こると考えられる。したがって特定の子だけがいくつかの要因や背景によって登校拒否を起すというのではなく、どの子にも起こりうるものであるといえる。それゆえ登校拒否を起すきっかけとなった直接の要因や問題の背景は何かを考察し、それが家庭や親子関係にどのように関わっているかなどについて考えていくことが重要である。主として考えられる要因は、

- ① 社会的要因：自由主義と経済発展への志向性、産業構造の変化と人口の都市集中化、地域の教育力の弱化、近隣の異年齢間の遊びや遊び場の喪失、その他。
- ② 学校の要因：社会の高学歴志向による受験競争の激化、教師や級友との信頼関係の欠如、学習の遅れ、友達によるいじめ、その他。
- ③ 家庭の要因：経済発展に伴う家庭の変容、核家族化に伴う家庭教育力の弱化、父親像の脆弱化、少子化による母子密着、その他。
- ④ 本人の要因：自己中心的、神経質、非社会的（無口、恥ずかしがり屋、内気、おどおど、孤立）、適応性、柔軟性、融通性、耐性、決断力、自主性などに欠ける、敏感な感受性、几帳面、その他、等である。

(3) 登校拒否の発生状況－(全国と本県との比較)－文部省の学校基本調査(平成6年度調べ)登校拒否児童生徒(「学校嫌い」を理由とする長期欠席者)の推移

学種 年度	小 学 校				中 学 校			
	沖 縄 県		全 国		沖 縄 県		全 国	
62年	86	0.07	5,293	0.05	619	0.90	32,748	0.54
63年	58	0.05	6,291	0.06	558	0.83	36,100	0.61
平成元年	65	0.05	7,178	0.07	648	0.99	40,080	0.71
2年	82	0.07	8,003	0.09	753	1.17	40,171	0.75
3年	73	0.06	9,645	0.11	673	1.12	43,711	0.84
	(101)	(0.08)	(12,637)	(0.14)	(914)	(1.52)	(54,112)	(1.04)
4年	52	0.04	10,436	(0.12)	766	1.28	47,482	0.94
	(71)	(0.06)	(13,702)	(0.15)	(957)	(1.60)	(58,363)	(1.16)
5年	57	0.05	11,421	0.13	593	0.99	48,893	1.01
	(85)	(0.07)	(14,706)	(0.17)	(828)	(1.38)	(59,677)	(1.24)

()内は30日以上長期欠席者数

* 小学校・・・出現率はほぼ横ばいの状態である。

* 中学校・・・年々増加の傾向にある。

(4) 本市の登校拒否児童生徒の状況(平成3年度～平成5年度)－本市教育委員会調査－

	学 校 数	平成3年度	平成4年度	平成5年度	
宜野湾市	小学校(7校)	11名	19名	26名	(0.4%)
	中学校(4校)	34名	85名	93名	(3%)

* 本市においては小学校、中学校ともに年々増加している。これは、全国、本県の平均をはかるかに上まわった数値であり指導が急がれる。

(5) 登校拒否に陥った直接のきっかけ

文部省の学校基本調査(平成3年度)

	小学校	中学校
学校生活での影響	21.9%	37.0%
家庭生活での影響	29.4%	22.0%
本人の問題	37.7%	32.9%
その他、不明	9.9%	8.1%

* 小学校においては本人の問題(不安など情緒的混乱型)が、第一位を示している。そのことから学校・家庭においては、不登校のサインを早くキャッチすることが重要である。

(6) 登校拒否の主なサイン

- ① 特に病気とは考えられないが、頭痛、腹痛など体の不調を訴える。
- ② 保健室への出入りが多い。
- ③ 欠席や早退を繰り返す。
- ④ 登校時に親に付き添ってもらおう。
- ⑤ 土、日や連休など休み明けに欠席が多い。
- ⑥ 友達が少なく、休み時間一人で過ごしていることが多い。
- ⑦ 「学校がいや」「友達がいじめる」「先生がこわい」など非難、つぶやきをもらす。
- ⑧ 朝起きが遅く身支度がぐずぐずしている。
- ⑨ 帰宅すると疲労がひどい。
- ⑩ いらいらしたり、自室へ閉じこもる。等が見られる。

(7) 学級担任としての援助、指導のあり方

登校拒否を起こす前の段階を二つに分け、その援助、指導について考えてみる。

① 潜在的段階の援助・指導（児童が表情やしぐさ・言葉などで何らかのサインを示している段階）

潜在的段階の援助・指導のねらい

ア 教師との人間関係が深まるよう心掛けること。

イ 仲間との関係が深まるように配慮すること。

ウ 児童・生徒が自分の行動に自信がもてるようになること。

エ 親に、子どもに対してのかかわり方を探求してもらうこと。

この段階では、教師が日常行っている援助・指導計画と大差はない。ただ、この児童・生徒にとってどこが特に必要であるかを考慮して、重点的に援助・指導していくことが必要である。

たとえば、教師が児童・生徒の内面を理解し、寄り添うことが大切である。（本人が興味をもっていることを話題にする等）

本人の状態	本人に対する援助・指導	親に対する援助・指導	学級集団づくり	備考
(1)友人が少ない 休み時間外に出ない 自己表現しない ↓ 教師に話ができるようになる ↓ (2)教師に自分の悩みを話せる ↓ (3)教師の援助のもとに全体接触が多くなる ↓ (4)自信ある行動が多くなる ↓ (5)班内で自分の考えを出せるようになる ↓ (6)集団の中に入り自分を表現できるようになる	(1)教師からの接触を多くする ・できるかぎり接触を多くする ・できるだけ声をかける ・小さなことでも認め励ます ・機会ごとにできるだけほめる ・ときどき仕事を一緒にする (2)教師との関係を深める ・子どもとのつながりを深める ・家のことや友達のことを聞く ・悩みや不安を聞くようにする (3)全体接触の場をつくる ・発表の機会を多くする ・話し合いを多くする ・手を挙げたら必ずあて認める ・全員で遊ぶ日をつくる (4)自信が持てるように配慮する ・できることを毎日続けてもらう ・係の仕事を与える ・好きなことに取り組めるよう配慮する (5)自主的に活動する場をつくる ・自分の目標が持てるように配慮する ・自分たちで計画を立て活動する場をつくる ・学校行事を企画運営できるように配慮する (6)仲間関係を深める ・仲間づくりをする ・仲間としての連帯意識が持てるように配慮する ・友人と話し合う場をもうけ友人関係が回復できるように配慮する	(1)子どもへの接し方の改善 ・自分自身は自分でさせる ・こまやかなことは言わない ・過大な期待はしない ・最小限のきままりをつくり守らせる ・結果よりも過程を大切にしている (2)外遊びをさせる ・たくさんさんの友達と遊ぶ配慮をする ・親と一緒に遊び、遊びの楽しさを学習してもらう (3)(4)生活体験を広げるように配慮する ・親類への泊まりがけの旅行 ・地域巡り ・サイクリング ・ハイキング (5)学校との連携を深める ・教師との信頼関係を深める ・学校と絶えず連絡をとる	クラス全体が楽しいといえる学級づくりをする (具体的な手順で行う) ・教師が楽しい学級をつくる ・子どもが熱意をもつ ・教師が一人一人の子どもの受容する ・子どもの側に楽しい学級をつくらうとする意欲がわく ・教師が適切な指導を加える 一人一人が安定感を得られみんなが助け合える学級づくり 一人一人が主人公となる学級づくり	全体的には学級経営の一貫として取り組む 調査資料をもとに援助・指導計画を立てる 本人に対する援助・指導は交換日記や班日記などを利用しながら進める 親に対する援助・指導は家庭訪問や父母懇談などを通して進める

② 心気症的段階の援助・指導 (登校を拒むような状態が見られる段階)
 《児童生徒に対する援助・指導》
 ア 登校刺激を与えてみる。
 イ 登校刺激をいっさいやめめる。親や教師の登校刺激によっていらだつようであれば「学校」「勉強」は禁句でしばらくは登校刺激をやめる。
 ウ 教師は、児童生徒との信頼関係を深める。
 《親に対する援助・指導》
 ア 登校刺激を与えてもらう
 「明日から行く」と言いながら登校しないときは学校へ押し出してもらう。教師も4、5日は続けて迎えに行く。
 イ 拒否反応が強ければ登校刺激はしない。

本人の状態	本人に対する援助・指導
(1) 連続的欠席状態 心気症状が強い 自己表現しない	(1) 登校刺激をしない ・ 登校を勧めない ・ 学校に来られるまで家にいてよという
(2) 心気症状が弱まる	(2) 心理的解放をはかる ・ 家で自由に、甘えさせる
(3) 心気症状が消える	(3) 生活習慣を整える ・ 起床時間・就寝時間・食事の時間等、守らせる
(4) 活動が活発になり始める	(4) 遊びの輪を広げる ・ 好きなことに集中させる ・ 友人と遊ばせる ・ 散歩をさせる ・ 買い物に行かせる
(5) 活動が活発になる	(5) 生活体験を広げる ・ 読書させる ・ 親類への泊まらせる ・ 地域巡りをさせる
(6) 学校のことを考えはじめ	(6) 教師とのラポポート関係を深める ・ ありのままを受け入れてあげる ・ その心情を理解してあげる
(7) 登校してみようという気持ちになる	(7) 自分の心を語らせる ・ 家のこと ・ 友人のこと ・ 学校のこと
(8) ときどき登校を始める	(8) 自分を見つめさせる ・ 休み中の自分こと ・ 自分を見つめなおさせる
(9) 登校がスムーズになる	(9) 目標を決める ・ これからの自分のあり方を決める

親に対する援助・指導	学級集団づくり	備考
(1) 登校刺激をしない ・ 学校へ行けと言わない ・ 学校のことについて触れない ・ 勉強のことに触れない (2) 心理的解放をはかる ・ 家で自分の思うとおりにさせる ・ 子どもの甘えを受け止める (3) 親の養育態度改善をする ・ 子どもへ接し方など ・ 生活習慣を整えさせる ・ 子どもと話し合い時間を決める ・ しつこく注意をしない (4) 体力づくりをする	学校に理解をもとめる ・ 病気が闘っていることを知らせ協力をもとめる 級友の働きかけ ・ 手紙を書いて送る ・ 電話をかける 級友が交流を始めるとの 級友が遊びに行く 級友との交流を深める 親しい友人から順に友人の輪を広げる ・ 親しい友人が迎えに行く	病院で病気が調べられないか、調べよう 専門機関に連絡し指導助言を求め 助言をもとに援助・指導計画をたてる 学校体制のなかで指導方針を確認し教師教師間の連絡援助体制をつくる 専門機関との連携を密にする 教師は家庭訪問をし本人との面接や父母との対応を行う 援助・指導は家庭訪問や父母懇談などを通して進める

(8) 潜在的段階発見のためのチェックリストとその結果

① 登校拒否児童を早く発見することができれば、その援助、指導も早く行うことができる。

そこで、先ず潜在的段階の発見のためのチェックリストを実施した。また、ソシオメトリックテストやゲス・フーテストで友人関係を調査しその関わりを調べてみた。

ア 潜在的段階発見のためのチェックリスト

番号	はい	わからない	いいえ
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

イ ソシオメトリックテスト
① あなたは、このクラスの中でだれと一緒に勉強した
いですか。したいと思う順に5人書いて下さい。その
わけも書きましょう。
② あなたはこのクラスの中に一緒に勉強したくない人
がいますか。もしいましたら、その順に5人まで書いて下
さい。そのわけも書きましょう。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳
7.9	11.2	21.3	13.7	13.7	31.2	5.9	24.3	11.9	13.0	12.3	44.0	19.3	46.5	27.5	21.3	32.2	22.0	39.0
7.8	15.8	7.0	8.5	15.5	21.3	11.8	20.5	7.8	22.8	31.5	7.0	59.7	28.3	16.5	27.8	16.3	30.2	15.3
84.3	73.0	71.7	77.8	70.8	47.5	82.7	54.8	80.3	89.2	53.9	15.8	30.3	25.2	56.0	50.9	31.7	47.8	45.7

ウ ゲス・フーテスト
人と相談しないで、自分の考えたとおり書いて下さい。
先生だけで誰にも見せません。
下の一つ一つを読んで、この学級の中でだれがそれにあ
てはまるかを、目ごろ感じているところから書きましよう。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳
13	20	20	27	60	27	47	20	20	13	13	67	27	47	40	20	47	47	87
6	8	6	40	6	27	60	13	0	0	0	67	0	0	0	0	20	20	67
81	80	74	54	73	60	60	40	87	80	87	33	40	33	60	67	33	33	67

こういふ子は だれですか？
1 学級の中でみんなと仲良くできる子は
2 その反対に、人をいじめていて仲良くない子は
3 人のあやまちをゆるしてくれる子は
4 いままでおぼろげな気持ちで仲良くない子は
5 勉強やテストのとき、友だちと力を合わせてやる子は
6 自分勝ちなことばかりをする子は

※ゲス・フーテスト
1・3・5は望ましい人物、行動でプラス1点
2・4・6は望ましくない人物、行動でマイナス1点
(点数が高いほど社交性がある。)

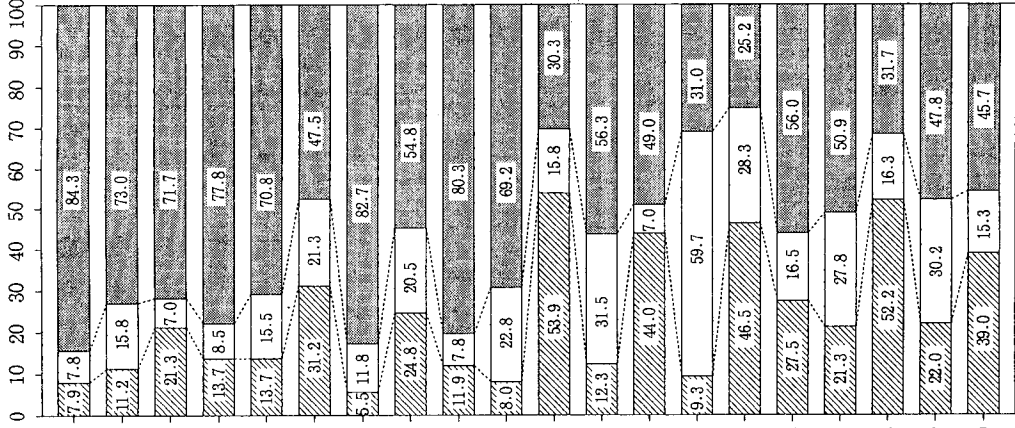
② 結果 自己チェックにより抽出された児童の数 (36名中16名)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20															
ソシオ	0	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	3	4	1	6	1	1	0	4	1	3	0	7	0	4	1	1								
メトリック	12	8	4	10	5	12	9	9	5	6	19	1	3	5	0	16	6	9	15	7	5	2	1	1	1	1	1								
ゲス・フー	8	13	8	7	13	20	10	23	13	16	10	11	19	11	13	16	18	9	13	19	15	17	13	7	7	8	16	7	7	9	5	18	18	18	17

※おとなしく、目立たない子に被選択数が多い。
・活発に見える子が、チェックリストでは高得点で抽出される子もいる。
・被排斥者数の多い子に高得点が多いとは限らない。
・言葉使用の乱暴な子は被排斥者数が多い。
※ 言葉使いが子どもたちの人間関係に影響していることが分かった。

③ 潜在的登校拒否児童チェックリストの結果 (学校全体と抽出児との比較)

調査人員318名 ○小学校 (1年~6年)



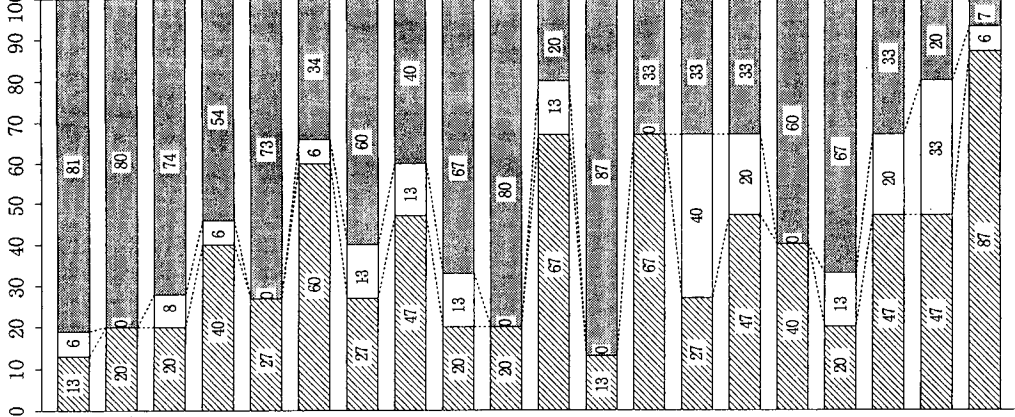
※ チェックリストの内容は47ページ ア、参照

全体の平均値から次のことが分析された

特に1、2、4、5、6、7、8、10、13、14、16、19、20に特徴が見られ、43ページの
不登校に陥りやすい子どもの性格要因との共通点が多いことがわかった。(神経質、非社
会的、決断力に欠ける等...)

④ 抽出された潜在的登校拒否児童の
チェックリストの結果 (×年×組)

36名中16名



⑤ 潜在的登校拒否児チェックリスト学年別の結果1年～6年の実態(各学年1クラス)

	はい						わからない						いいえ					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	20	0	14	7	6	0	7	7	5	3	8	17	73	93	81	90	86	83
2	30	10	19	0	3	5	10	17	0	23	14	31	60	73	81	77	83	64
3	43	41	22	13	3	6	10	5	3	10	14	0	47	54	57	77	83	94
4	13	10	19	7	14	19	3	5	3	7	8	25	84	85	78	86	78	56
5	20	5	19	13	14	11	13	7	3	13	26	31	67	88	78	74	60	58
6	43	64	36	33	8	3	13	5	14	40	17	39	44	31	50	27	75	58
7	13	0	14	0	6	0	27	2	8	6	17	11	60	98	78	94	77	89
8	30	22	31	27	20	19	13	10	17	27	20	36	57	68	53	46	60	45
9	17	8	8	13	11	14	10	2	3	7	14	11	73	90	89	80	75	75
10	7	5	6	10	17	3	50	12	8	20	28	19	43	83	86	70	55	78
11	60	41	50	54	54	67	13	10	8	13	23	28	27	49	42	33	26	5
12	20	0	17	3	17	17	30	10	55	37	26	31	50	90	28	60	57	53
13	23	42	45	44	43	67	7	2	8	6	14	5	70	56	47	50	43	28
14	10	17	22	7	0	0	57	73	47	10	74	97	33	10	31	83	26	3
15	80	46	36	60	29	28	7	37	8	20	51	47	13	17	56	20	20	25
16	40	7	33	20	37	28	13	12	6	17	26	25	47	81	61	63	37	47
17	37	22	20	27	17	5	23	27	8	30	40	39	40	51	72	43	43	56
18	57	56	50	48	49	53	0	15	11	18	26	28	43	29	39	34	26	19
19	30	12	28	13	27	22	20	39	22	27	23	50	50	49	50	60	50	28
20	40	71	25	33	34	31	7	2	14	23	32	14	53	27	61	44	34	55

学年別の調査結果から次のことが分析された。

- どの学年にも、平均して見られるもの……4、5、8、9、11、12、18、19、20
- 学年によってバラツキがあるもの……1、2、7
- 学年がすすむにつれて変化するもの……3、6、13、15、17

⑥ 児童にチェックさせた結果、潜在的登校拒否児童として抽出された児童の数

学年	在席数 (人)	潜在的登校拒否児童数	%
1年	30	12	40
2年	41	15	37
3年	146	40	27
4年	30	12	40
5年	35	16	46
6年	36	16	44
合計	318	111	34.9

〈考察〉

潜在的登校拒否児童数が34.9%となり、予想をはるかに上まわった数値であった。チェックリストの結果が必ずしも登校拒否に結びつくとは言えないがその可能性がありそうだという点において、日頃の教師の観察力と指導力が要求される。

つまり、一人一人の発するサインを見逃さない、望ましい学級経営をすることが大切である。

47ページのソシオメトリックテスト、ゲス・フーテストによると、ことば使いの乱暴な子が排斥されている。

そのことから、望ましい人間関係を育てるにはどうすればよいか、特に「ことば使い」に焦点を絞って研究を更に深めてみたい。

2 望ましい人間関係を育てるには一不登校児を受け入れるために一

子どもたちが「この学級の一員でよかった」と言えるようにすることは、担任共通の願いである。それは、学級内の望ましい人間関係にあると言っても過言ではない。

では、望ましい人間関係とはなにか。岡山大学の木原孝博氏によると「学習意欲の高い子どもたちが仲間を思いやりながら教え合い学び合う中で、自他共に高まり会う関係であり、教師が一人一人の子どもを受容し共感的に理解したうえで、存在感を与える指導により成立する」と述べている。望ましい人間関係の基盤になるものは、

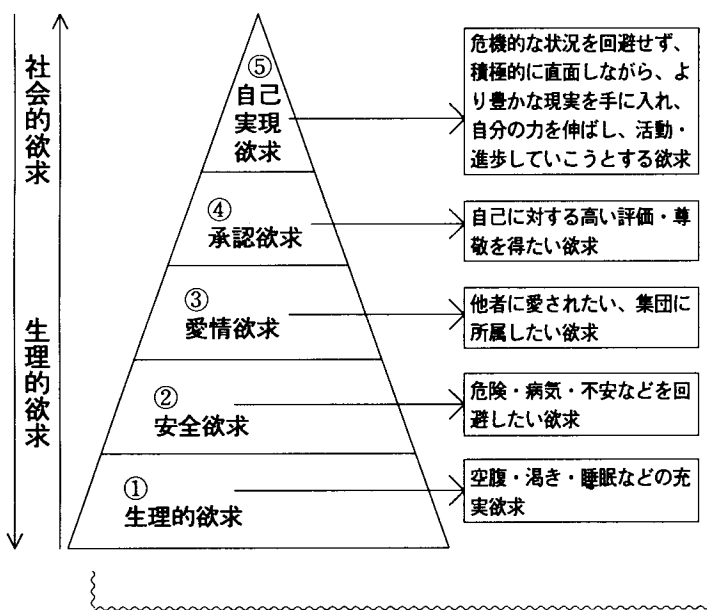
第1は、教室が、常に温かい雰囲気、協同的な関係で結ばれていること。

第2は、何でも言える友人関係、いつも明るく活発な言語活動、相互交流が行われていること。

第3は、集団が常に前向きに理想を高く掲げて前進していること。

いわば、子どもたち一人一人の集団にいることへの安心感や喜びを、教師は十分満たして行くことが大切であると考えられる。

第1図



(1) マズローの欲求階層説

マズローは人間の欲求は左図の①～⑤の階層をなしていると考えた。更に「心と体が健康であれば、人間は必ず伸びるものである。」愛情欲求や承認欲求などの基本的な欲求が、適度に満足された後には自己実現欲求が発生すると述べている。子どもたちを観察して見ると、教師や友だちからの注目、承認、受容、尊

敬、信頼共感などには快感を持ち逆に、無視、拒絶、排斥軽蔑、不信、暴力などには不快感をもつことがわかる。そのことを十分認識し学級づくりをすることが重要である。

(2) 教師の言語活動の重要性

教師と子ども一人一人の人間関係をより望ましいものにするには、日常の教育活動における教師の言葉づかい、言葉を発する態度、言語活動全体を、特に大切にしていかなければならない。不登校に陥りやすい子は、特に相手の言葉や態度に敏感だからである。

では、どのような言葉が子どもたちにより結果をもたらすのか考えてみたい。

- 身につけたい5つの言葉かけ

- ① 「どうということかな？」と子どもの心を自然に開く言葉かけ
- ② 「そうだ、そのとうりだね」とうなずいて確かめていく言葉かけ
- ③ 「できそうだ、だいじょうぶだ」と力強く子どもの心を引き出していく言葉かけ
- ④ 「だれだってそういうまちがいはある」と子どもの心に共感し、共有する言葉かけ
- ⑤ 「よくやったね、できるじゃないか」と心から子どもの自立を喜ぶ言葉かけ

などが上げられる。

子ども的人格が尊重され、言動が肯定的に受け止められていると感じられたとき、子どもは教師に心の扉を開くのではないかと考える。

(3) 教師の援助、指導過程における発言の分類—甲斐志郎氏の調査による

教師が不登校児を援助・指導していく段階でいろいろな発言をする。その言葉が温かいと受け止められたとき信頼関係が生まれる。次は、母親と児童へのカウンセリングを逐語記録にしたもののなかの一例である。

教師から	親 へ	人数	級 友 へ	人数	本人へ	人数
理解的発言	心配しているでしょうがムリに登校させるのはやめましょう。	27名	彼は怠けているわけではないので「ズル休み」などと言わないようにしましょう。	5名	朝、お腹が痛いと思ったらどうだろうね。	10名
他罪的発言	何日もやすんでいるのにお母さんは平気なんですか。	53名	彼は怠けているからみんなで行って連れてきなさい。	12名	お前の腹痛は仮病だろう。	15名
自罪的発言	私も今後気をつけたいと思います。	6名		0名		0名
無罪的発言	学校に来ない理由を子どもに聞いてあげてください。	17名	だれか勉強を教えにいったりあげませんか。		食事はおいしく食べられますか。	6名
合 計		103名		28名		31名

教師はつい厳しく他罪的発言をしてしまいがちであるが、理解的発言を多くする心がけが必要である。

(4) 子どもたちの言語活動を整える必要性

学校においては子供達同士、ややもすると相手を傷つける言葉が飛び交い、それが原因で学校を休むなどトラブルも多い。今学校現場で問題となっている「いじめ」について、東京理科大学専任講師の伊藤稔氏によると、その態様は、「言葉による暴力・冷やかし、からかい」が40.6%を占めているという。(教育データランド'93-94より) このことから言語環境の必要性が伺える。そこで、学級経営年間計画案を作成し、「思いやりのある言葉づかいについて」学級活動を行うことにした。

(5) 学級経営年間計画案 — 不登校児の受け入れ態勢づくり —

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
学級経営の重点	<p>◎仲間と協力し楽しい学級づくりを目指す ・中学年の仲間入りを自覚させ、お互いに協力して楽しい学級をつくろうとする態度を育てる。</p> <p>◎一人一人のよさを認め合い、励まし合いながら響き合う学級づくりを目指す ・学級として、学校行事に積極的に参加しようとする態度を育てる。</p>												
一人一人を生かす重点	<ul style="list-style-type: none"> 学級開きを通して進級した喜びを味わい、意欲をもつよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 遠足を通して学級への所属が高まるよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 班、係活動を通してみんなが力を合わせてがんばる気持ちをもつよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の反省を通して、自分の伸びた所や反省点を見つめるよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の反省づくりを通して、積極的に取り組む意欲を持つよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会等を通して教え合い、励まし合うよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを通して、お互いが認め合うよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の反省を通して、積極的に活動できた場面を意識するよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の目標づくりを通して一人一人に自分を見つめさせ、めあてを持つよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを通して、欠点を是正しよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを通して、自分の長所、短所を知り、個性を伸ばすよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 一年間のまとめを通して自分の長所、短所を知り、個性を伸ばすよう働きかける。 	
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 始業式 入学式 1年生を迎える会 	<ul style="list-style-type: none"> 春の遠足 	<ul style="list-style-type: none"> 写生大会 ブール 	<ul style="list-style-type: none"> 終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み作品展 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会 読書月間 ブール納め 	<ul style="list-style-type: none"> 社会見学 	<ul style="list-style-type: none"> 終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 始業式 	<ul style="list-style-type: none"> 学芸会 学会 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式を送る会 卒業式 修了式 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式を送る会 卒業式 修了式 	
学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習の決まり、誤答も許し合える雰囲気づくり 話の聞き方 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の決まりの徹底指導 発表のし方 朝の自習へのとり組み 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に悩みをもつ子の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導の反省 夏休み中の課題づくり 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習の活性化 家庭学習の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 読書指導 読書感想画 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の学習方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の規律づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 不得意教科の克服 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめ 基礎基本の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめ 基礎基本の定着 	
徳	<ul style="list-style-type: none"> 約束を守り、誠実に生活しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの大切さを知り、クラスのために役立とう 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの大切さを知り、クラスのために役立とう 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所を知り、友達とのよさも見つけよう 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みをふりかえり、節度のある生活に心がけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事に進んで参加し協力してやろう 	<ul style="list-style-type: none"> 人々の支え合いや助け合いで生活が成り立っていることを知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> 正直に明るい心で生活しよう 	<ul style="list-style-type: none"> よく考えて行動し、過ちは素直に認めよう 	<ul style="list-style-type: none"> より高い目標をもち、くじけないで努力しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の特徴を知り、良さを伸ばそう 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の特徴を知り、良さを伸ばそう 	
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 学級開き 1学期の目標・学級の組織作り・議題ポスト 	<ul style="list-style-type: none"> 春の遠足に向けて遊びや決まりの計画 	<ul style="list-style-type: none"> 係の仕事や当番活動に意欲と責任をもとう 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の反省 お楽しみ会 2学期の学級開きの計画 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の目標づくり 班がえ編成 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会の目標・参加のし方 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が生かされ、お互いに高め合う話し合い 言葉づかい 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の反省 お楽しみ会 冬休みの計画 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の目標づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 学級文集づくり 学芸会の目標参加のし方 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の反省 お楽しみ会 進級への意欲づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の反省 お楽しみ会 進級への意欲づけ 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 教室の環境作り 学年通信の発行(毎月) 潜在的な不登校児のチェック 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問 ソシオメトリックテスト 潜在的な不登校児のチェック 	<ul style="list-style-type: none"> 登校感情調査 言語環境の整備 問題行動児の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 通信表の作成 夏休み中の生活指導 	<ul style="list-style-type: none"> ソシオメトリックテスト 悩みや不安のある子への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会の目標・参加のし方 	<ul style="list-style-type: none"> 行動の評価 行動の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 通信表の作成 冬休み中の生活指導 	<ul style="list-style-type: none"> ソシオメトリックテスト 登校感情調査 	<ul style="list-style-type: none"> ゲスト 	<ul style="list-style-type: none"> ゲスト 	<ul style="list-style-type: none"> 通信表の作成 春休み中の生活指導 	<ul style="list-style-type: none"> 通信表の作成 春休み中の生活指導

V 実践事例

(1) その1・学級活動、主題「思いやりのある言葉」 短時間 (20分)

① 設定の理由

私たちは言葉によって喜び、怒り、悲しみ、楽しみなど様々な感情にとられる。言葉はお互いの人間関係にも大きな影響を及ぼす。ソシオメトリックテストやゲスフーテストの結果をみても、言葉づかいの乱暴な子は友達からの支持率も低いことがわかった。そこで日常使っている言葉を振り返ることによってあらためて相手を思いやる言葉について考えさせたい、と思い「やる気のでる言葉、いやな言葉」について調査をした。その結果をもとに、みんなが楽しく生活するためには心のこもった言葉づかいが大切であることを理解し実践させるためこの主題を設定した。

② 指導目標

友達を思いやる言葉づかいができるようにさせる。

③ 指導計画とねらい

第1時…やる気の出る言葉、いやな言葉について調査する。……朝の会 (20分)

第2時…アンケートの結果について考えさせ感想を書かせる。……朝の会 (20分)

第3時…前時の感想をもとに今後どうすればよいか考えさせる。…朝の会 (20分)

第4時…言葉づかいについて勉強しての感想を書かせる。……朝の会 (20分)

④ 指導過程

第2時………11月17日(木)。

	指導の内容	児童の学習活動
導入 5分	1・「やる気の出る言葉・いやな言葉」のアンケートの結果について考えさせる。	・アンケートのまとめ(1)を見て問題に気づく ・相手をはげます言葉やいやな言葉がたくさんある。
展開 10分	2・「やる気のでる言葉」について考えさせる。	・「やる気の出る言葉」のまとめを見て思ったことを発表する ・「やる気のでる言葉」を読んでいると、心がホッとした。
まとめ 5分	3・「いやな言葉」について考えさせる。 4・感想を書かせる。	・よい言葉は人をはげますんだなあ、と思った。 ・いやな言葉は人をきずつけるのでカッターみたい、と思った ・悪い言葉は力がぬけるかんじがするので使わないようにしたいと思った。 ・言葉づかいの大切さについて話を聞き感想を書く。

第3時………12月5日(月)

導入 5分	1・前時の感想をもとに気づいたことを発表させる。	・感想のまとめ(2)を読んで考える。 ・みんな心から反省しているんだなあ、と思った。
展開 10分	2・はげます言葉がいっぱいあるクラスにするにはどうすればよいか考えさせる。	・おたがいに注意しあい、注意された人もおこらない。 ・「やる気の出る言葉、いやな言葉」を教室にはったら、みんなもっと気をつけるようになると思う。
まとめ 5分	3・実践しようとする意欲をもたせる。	・みんなが一言ずつ書けば、もっと気をつけると思う。 ・一人で、二人で、グループで考えて話し合った事を発表する。

第4時…言葉づかいについて勉強したことで思ったことを書かせる。1月23日(月)

⑤ 評価

友達を思いやる言葉づかいを実践しようとする意欲や態度が身についたか。


アンケートのまとめ (1)

◎ともだちに言われた言葉

《うれしかった言葉. やる気が出た言葉》


勉強しているとき

- ・〇〇がじょうずだね・天才!
- ・ありがとう・がんばれよ
- ・いっしょにやろう
- ・頭がいいね・うまいなあ
- ・だいじょうぶ、
- ぜったいできるよ
- ・君がいたからできたんだよ
- ・また次も教えてあげるね
- ・手伝ってあげようか



遊んでいるとき. 休み時間


- ・いっしょに〇〇しよう
(遊ぼう、帰ろう)
- ・ありがとう
- ・よかったじゃん!
- ・だいじょうぶだよ
- ・やさしいね
- ・またこんどな
- ・すごいさあ
- ・ラッキーだったな



《やる気をなくした言葉》

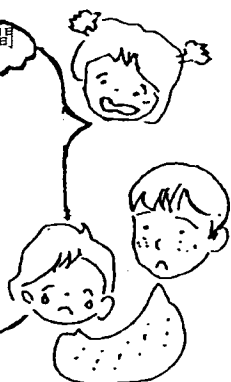
勉強しているとき

- ・アホか
- ・これくらいもわからんか
- ・へたっぴー
- ・これ、ぼくわかるう
- ・チョウかんたんかんたん



遊んでいるとき. 休み時間

- ・アホ・バカ・チビ
- ・もう遊ばん
- ・仲間に入れないよーだ
- ・あっちいけ、はごー
- ・早く帰れ、やめれえ
- ・けち・うらぎりもの




◎先生に言われた言葉

《うれしかった言葉. やる気がでた言葉》

- ・〇〇がじょうずだね
- ・いっしょうけんめいだね
- ・すごいね
- ・がんばれ
- ・もう一息だよ
- ・〇〇君ならきっとできるよ
- ・やったね
- ・ありがとう
- ・心配しなくていいからね
- ・〇〇さんを信じているよ
- ・さーすが!・すばらしい
- ・いっしょにやろう
- ・ずいぶんかわったね
- ・大丈夫だよ・そのちょうし!
- ・いつも助かるよ
- ・やる気まんまんだね
- ・ごうかく
- ・えらい!


《やる気をなくした言葉》

- ・早くしてえ
 - ・また、あんたねえ
- 

◎家の人に言われた言葉

《うれしかった言葉. やる気がでた言葉》

- ・〇〇がじょうずだね
- ・よくがんばったねえ
- ・100点すごいね
- ・ありがとう
- ・きをつけてね



《やる気をなくした言葉》



- ・勉強しなさい
- ・早くしなさい
- ・あんたがしっかりしないとだめよ
- ・へたくそ
- ・うるさい
- ・ばかかあ
- ・3年生なのに小さいねえ
- ・ちんどんまぬけ

感想のまとめ (2)



第2時 児童の感想より

- 悪い言葉を使うと言葉のカッターがでて来て、心をまっ二つにする。いい言葉は心のそうじぎ、病院だね。-S.O-
- いやな言葉を言われたら休みたくなるから、ぼくも言わない。-K.O-
- これからは人の気持ちも考えて、もんくとか言わないようにしよう。-T.S-
- 悪い言葉は人の心を切ってしまうことなんだね。でも、はげましたりする言葉はじしんまんまん、こわいことなんかふつとばしちゃうんだなあ-A.M-
- 悪い言葉は頭にガーン、いい言葉は頭に花がさく。-S.S-
- もうわるい言葉はいやだ。-N.Y-
- 悪い言葉をへいきで使っていたから、気をつけないとな。-T.S-
- 人がやる気をなくす言葉はいわないようにしたい、また言われぬようにしたい-S.T-

学級活動-第1時-

あなたは、これまでに人から言われて  うれしかった言葉、やる気が出た言葉  いやだなあと思った言葉、やる気がなくなった言葉は何ですか？よく思い出して書いてね。
◎言葉が思い出せないときはそのときのようすを書いてもいいんだよ。

()年()組()ばん 名前()

	 うれしかった言葉 やる気が出た言葉	 いやだなあと思った言葉 やる気がなくなった言葉
クラスの人から		
先生から		
家の人から		

学級活動-第4時-児童の変容を見るために行ったアンケートの内容とその結果-

アンケート(言葉づかいについて) 年 組 番 名前()

言葉づかいについての勉強をして、今の気持ちを正直に次のアンケートに答えましょう。

- あなたは言葉づかいについて気をつけるようになりましたか。
ア.はい (30名) イ.いいえ(変わらない) (3名) ウ.分からない (3名)
- はい、に○をした人だけ答えましょう。
言葉づかいに気をつけるようになってよかった!と思うことは何ですか。(いくつでもよろしい)。
ア.友達がふえた (12名) イ.ほめられることがふえた (9名)
ウ.思いやりの心がでてきた。(やさしくなった) (9名)
エ.その他 ・家の人も協力するようになった (2名)
- いいえ(変わらない)に○をした人だけ答えましょう。
ア.すぐ、わすれてしまう (1名) イ.くせになっている (2名)
ウ.てれくさい (0名) エ.めんどうくさい (0名)
オ.その他 (0名)
- 言葉づかいについて勉強してから、クラスのなかまはよくなった!と思いますか。
ア.とてもよくなった (11名) イ.よくなった (16名) ウ.少しよくなった (3名)
エ.変わらない (1名) オ.分からない (5名) カ.悪くなった (0名)

5. 言葉づかいについて勉強しての感想を書きましょう。(自分のこと、クラスのことなど)

児童の感想より

<p>私は、先生の話をよく聞いて、 友達の話をよく聞いて、 悪いことをしなくて、 褒められるようにしたいです。</p>	<p>ことは「使いをよくして」 から、友だちがよくなって、 ほんとうによかった。 (長崎 悠介)</p>	<p>クラスで悪いことが少なくて、 褒められることが多くなりました。 ほんとうによかったです。</p>
--	---	---

⑥ 保護者との連携

言葉づかいについて、保護者への啓蒙を図りたいと思い子どもたちの感想文等を学級通信で知らせた。後日、保護者から次のような感想が寄せられた。

保護者の感想より

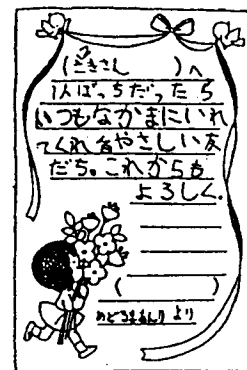
- ◆「いじめ」の問題が、毎日のように、テレビや新聞のニュースで言われ、暗く悲しい気持ちと、わが子が被害者、加害者にならないだろうか、という不安な気持ちとでいっぱいになります。短時間にせよ、「言葉づかいに」について話し合い、相手を思いやる気持ちを育てることは大切な事だと思います。これからはこういう話をどしどし取り入れていていただきたいです。ー母親Aよりー
- ◆子どもへの言葉かけの大切さを知り、自分を反省するきっかけにもなりました。これからももっとほめてあげなくてはね。ー父親Bよりー

⑦ 指導を終えて

言葉づかいについては、あらゆる教育活動の場で日々指導していることである。

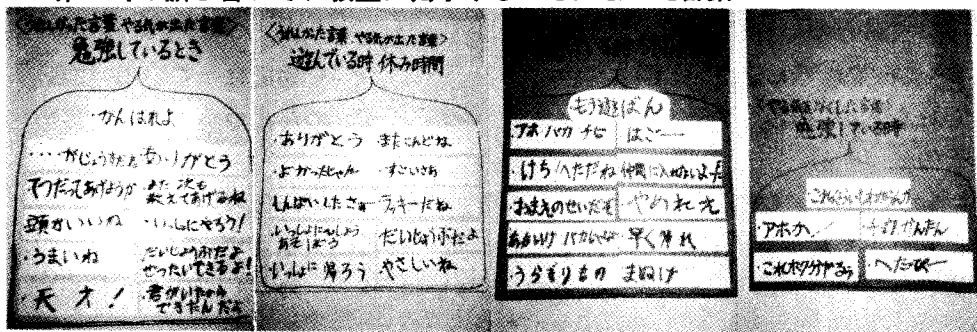
☆友だちのよいところを見つけ
 て言葉のプレゼントをしよう☆

今回、学級指導として位置づけアンケートの生の声をまとめ、その資料をもとに指導したことは、一人一人の児童が自分を見つめ直す機会となり、かなりの成果があった。そのほかに「友達のよさを見つける指導」ー友達へのメッセージー等を取り入れたことも本時の効果を高めることに繋がった。



子どもたちの言語環境を整えることは、子供同士の人間関係を深め「居心地のよい場」としての学級づくりにつながる事が分かった。

ー第3時の話し合いで、教室に掲示することになった言葉ー



(2) その2・A子の事例

① 成長過程と家庭環境—甘えの経験が少なかったと思われる幼児期—

父・母・本人・弟の4人家族。両親共に教育熱心で厳しくしつける。A子が、不登校に陥るまでは共稼ぎであった。父親は帰宅時間が遅い。母親も忙しいときはA子を知人の家に1週間以上預けることもあったという。A子はその人のことを「ママ」と呼び親子のようになっていた。教育熱心な両親は3歳になるまでには、机に向い勉強する習慣を身につけさせた。A子も従順で回りの大人からは「おとなしい子、おりこうさん」と言われていた。

② 登校拒否のきっかけ—母子分離不安型と見られ母親への甘えが抜けない—

小学校1年の3学期、風邪で学校を欠席する。回復後、腹痛を訴えて登校を嫌がり外出も拒むようになった。当初は甘えだと思い、無理に登校を促していたが、○クリニックの治療を受けるなかで、はじめて登校拒否と認識した母親は、仕事を辞めA子につきっきりである。○クリニックの指示に従い、A子の意志を尊重して自由な生活をさせるようにした。その後、保健室登校に仕向けるが、保健室でも赤ちゃんのように床を這いずり回るなどの退行現象が見られたという。学校から適応教室を紹介され、2年生の10月～3月まで通う。

それから、次第に落ち着きを取り戻し、同年齢の友だちとも遊べるようになった。

③ 指導の経過

4月5日—適応教室の指導員と旧担任、母親との話し合い—

A子を受け持つことになった私は、はじめての経験であり不安であった。そこで適応教室の先生と旧担任を交えて話し合いを持った。その日、母親も来校されたので生活の様子、学習の様子、興味を持っているもの等を伺った。そして始業式に登校できることをめあてに、旧担任の協力を得て友だちからA子にTELをしてもらった。「学校へ行こうね」と言う言葉かけではなく「何を着けて行くの？」など心を落ち着かせるための話をしてもらった。

4月7日始業式—A子に手紙を書く—

母親と来校。玄関にA子を迎えに行く。そこで靴箱を教えてあげた。廊下まではついてきたが教室には入れなかった。その日、A子に手紙を書き友達に届けさせた。「・・・今日は会えてうれしかったよ・・・新しい本にはA子さんがきつとすきになるお話がいっぱいだよ。あした教科書をあげるから楽しみにしててね・・・」

その日の午後、手紙を大事そうに持って友達と学校へ来た。「先生、A子が本をもらいたいんだって。」しかし、教科書はあげなかった。明日から来なくなったら、と言う不安があったからである。学級に少しでも早く慣れさせるために、教室の掃除の手伝いを頼んだら喜んで引き受け、友だちときれいにしてくれた。今日がんばったことを「明日みんなに話して上げるからね」と言うと、にこにこして帰った。

4月8日—A子が登校!—

教室は大さわぎ。A子が教室に入ったことに驚いたようだった。A子は緊張した面持ちで行儀よくきちんと座っている。約束どおり、早速、昨日のことをみんなに報告し、大きな拍手をした。A子は照れながらも、うれし気である。自分の席に着いただけでも前進だと考え、「今日は、帰りたくなったらいつでも帰っていいからね。」という、「もう少しがんばる」との返事。一時間終了後もまた、声をかけ

る。その日は、帰りの会まで頑張る。来週、金魚を持ってくる約束をしてさようなら。一金魚は登校のきっかけづくりのためー4月9日～4月17日ーおたふくかぜで出停となる。その日から毎晩、電話で談話をする。

せっかく登校できたのに、と残念に思ったが、電話でおしゃべりをしてレポートを図るように努めた。次第にA子の心が開いて行くのが見える。早く学校へ行きたい、との気持ちが高まる。そして、A子の強い要望により放課後、金魚と自分のお道具箱を持って来てよい事を許可した。

4月17日(日)一日曜日、一緒に飼育小屋の動物の世話をするー

おたふくかぜも治り、明日からは学校へ来られるというが、どこか不安げである。母親の話だと、休みのあとは学校へ行くのが億劫になるという。そこで日曜日、一緒に学校に来て動物の世話をしたり、学級の金魚の世話をしたりして、A子の不安な気持ちを和らげるようにした。

4月30日風邪で病院へ行ったが、休みたくないとのことで、10時に登校。

そして、4月は1日も休まず元気に登校した。

その間、A子の回復が急速すぎるのではないかとの思いから、「帰りたいときは、いつでも帰っていいよ。」とA子に絶えず声をかけた。

5月7日ーA子に疲れが見え始める。学級の子どもたちも積極的に電話するようになる。

休んだ日は必ず電話をし、無理しなくてもいいことを伝え、気持ちをリラックスさせるようにした。プリントなどを友達に持たせ、子どもたちとの関わりが絶えないように配慮した。嬉しいことに、子どもたちも休み時間に電話をするようになった。

5月13日「先生、今日も全員出席だね、10本指で大きな拍手をしようよ！」A子の言葉。

6月・7月ー欠席なし！1学期無事に終業式を迎える。

1学期最後のお楽しみ会では劇の発表をし、その成長ぶりには目を見張るものがあった。9月ー紙芝居を作り始業式を楽しみに待つ！

始業式に再び登校できるようにするには、学級開きの工夫にあると思い、夏休み中は、度々電話をしたり、学校へ連れて来たり、家庭訪問などをした。「学級開きにやりたいものを友達と考えておいてね。」と伝えると、弾んだ声が返ってきた。紙芝居をつくり、始業式を楽しみに待つことができたようだった。

9月は殆ど休みもなく、1年ぶりの運動会はとても楽しかった！と声を弾ませていた。10月中ばごろから風邪がきっかけで一進一退を繰り返すようになった。そのことに気づいた学級のPTA役員が、自分たちにも力になることがあれば、と積極的に働きかけてくれた。本の読み聞かせ会に誘って発表させたり、母親をPTA活動に誘ったり・・・。

こうして、周りの父母の温かい心づかいと学級の子どもたちの働きかけ等もあり、再び登校するようになった。

④ 〈考察〉

私がA子の事例を通して学んだことと効果的な実践例をいくつかあげてみたい。

ア. 学級の子どもたちと温かい態度で受け入れること。

支持的受容的風土づくり、班活動を中心に教え合い、学び合い、認め合う（失敗は成功の元）

イ. 自信を持たせること。

一人一人のよさを認め、励ますことによって、満足感や成就感を味わわせる。更に次への意欲をかき立てるため一步高い目標を常に持たせること。

ウ. 家庭との関わり

わが子が不登校に陥った両親の悩みは、計り知れないほど大きなものである。そのことをまず理解し、親の気持ちを少しでも安心させることが大切である。子どもは親の不安な状態を敏感に感じ取ってしまうからである。親としての優しさと、厳しさを持って接するよう、そして親自身も自らを変えていくことが必要である。

エ. 教師間のチームワークが大切である。

職員会、学年会等で不登校児について、共通理解を図る。校長、教頭、養護教諭が教育相談に関わることも大事である。教師の連携プレーが指導の効果を高め、学級担任の精神的な支えになる。

オ. 専門機関との連携を図る。

適応教室の先生や相談所に連絡をとる。適切な指導助言は担任の負担を和らげる。

効果的な実践例

- ① 朝誘いによる：一時的には効果あり。仲良しの友人を、誘いに行かせるのも効果がある。
- ② 即日、家庭訪問や電話をする：初期の段階では効果がある。登校刺激に対する抵抗が強い時は効果が薄い。
- ③ 家庭訪問して遊んだり話し合ったりする：「先生に親しみがもてた」という感情が働く。
- ④ 手紙を出す：「先生や友達はあるあなたのことを忘れていない」という意識づけのために効果がある。
- ⑤ 家の人に送って来させる：母子分離不安の強い子に有効である。
- ⑥ 登校刺激を緩和する：引きこもりや親への反抗が著しいときは、情緒を安定させる。
- ⑦ 励ます、ほめる、認める：継続して登校できる働きがある。
- ⑧ 話を聞く、話し合う：子供の心の支えになる。常に「傾聴」する姿勢が大切。
- ⑨ できるだけ声をかける：子どもの存在を認めてあげる上で有効。
- ⑩ いっしょに作業する、共に遊ぶ：教師に親近感を持つようになる。
- ⑪ 勉強の面倒を見る：劣等感を取り除いて自信を持たせる。根気よく対応する。
- ⑫ 係や仕事を持たせる：「自分が役に立っている」という気持ちが張り合いとなる。
- ⑬ 座席の配慮をする：親しい子、面倒見の良い子を隣に配置する。
- ⑭ 仲間づくり、雰囲気づくり：クラスの受容的雰囲気は効果大である。

A子が、今後不登校に陥らない、という保障はどこにもない。しかし焦らず、あわてず、あきらめず温かい心で接すれば必ずよい方向へ進むものと信じている。



VI 研究の成果と今後の課題

不登校に陥った子も、そうでない子どもたちも、「学校が楽しい居心地のよい場」にするためにはどうすればよいか。を課題として研究を進めてきた。6か月の間に数多くの文献に触れることができ、これまでの指導を振り返り、自分を見つめ直す機会となった。

1 研究の成果

- (1) 不登校についての理論を学ぶことで、児童の見方が変わった。また、一人一人を大切に学級経営の奥の深さを痛感した
- (2) 子どもたちの言語環境を整えるための学級活動を行うことで、望ましい人間関係が醸成された。また、潜在的な不登校児童数も減少した。

・ゲス、フーテスト 10月（8名） → 1月（4名）
 ・潜在的な不登校児童数 10月（16名） → 1月（9名）

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
ソシオメトリック	2	1	6	5	2	1	2	10	10	6	4	9	10	4	1	1	4	5	1	3	7	3	5	0	5	4	4	5	0	1	10	3	3	7	3	5
ゲス・フーテスト	7	6	10	6	5	13	6	7	12	10	8	16	12	5	0	9	6	12	1	10	7	8	14	7	12	12	8	16	14	6	17	4	5	14	10	5
チェックリスト	8	2	5	7	13	16	8	20	13	10	10	10	10	12	11	10	10	15	9	13	19	15	13	13	7	7	8	15	7	16	8	5	17	14	15	10

- (3) 潜在的な不登校児のチェックリストを実施したことで、学校全体の児童の特性、各学年の特性を捉えることができた。
- (4) ゲス・フーテスト、ソシオメトリックテストを行うことで児童理解が深まった。
- (5) 登校拒否に関する研修会に参加したり、専門機関である教育相談所、適応教室の先生方の話を聞くことで、学級経営の示唆を得ることが出来た。

2 今後の課題

- (1) 心理検査の研究をさらに深め、積極的に学級経営に活用したい。また、ロールプレイング等による、子どもたちの望ましい人間関係づくりを深めたい。
- (2) 不登校について、職員間の共通理解のもとで進めて行けるような環境作りに努めたい。

3 終わりに

教師は、登校拒否、という症状につきあうのではない。その子に付き合うのである。「症状利得」という言葉がある。いわゆる登校拒否症状を、顕すことによって、それから身を守る道理を得ているのである。したがって、不登校に陥っている子どもをこちらのペースで貝の蓋をこじ開けようとするれば、かえって貝は病んでしまう。焦らず、あわてず、あきらめず、受容的な態度で温かく見守ってあげることにより、貝は自から蓋を開くであろう。

〈参考文献〉

牧 晶見・高階玲治編	「学校カウンセリング実践講座2」学研	1991年
甲斐志郎・古藤泰弘編	「学校カウンセリング実践講座5」学研	1991年
函館市南北海道教育センター	「ラポールを深めて」	平成4年
岡本孝司・谷 健	「小学校4年生の学級活動」	教育出版 1992年
森隆夫・薩日内一編集	「学級担任と学級教育」	ぎょうせい 昭和62年